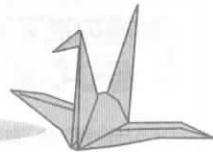


2022 ビキニデー in 高知



～ 今、改めて核被災を学び、自分たちの生きる未来を考えよう～

5月6～8日、ビキニ環礁の原水爆実験で被ばくした、元マグロ漁船員の救済を訴える「2022ビキニデーin高知」が行われ、室戸市のフィールドワークと、高知市での全体集會に延べ330人が参加しました。全体集會の中盤では、幡多高校生ゼミナール（以下幡多ゼミ）OB、核被災を学ぶ大学生や現役教員らが「核兵器と私と未来」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

まず知るにと、そこから学びへ

登壇したパネラーに共通するのは、平和学習はしてきたが、ビキニ問題に取り組みまでその事実を知らなかった、知っていたが意識をしていなかったというこ

とでした。

幡多ゼミOBは土佐清水市にあった被災漁船「住吉丸」の調査をまとめたビデオ制作で、脚本やナレーションを担当しました。第五

福童丸だけでなく、高知県のマグロ漁船が被災していることを知り身近な問題と感じました。幡多ゼミでの活動が現在の仕事にも活かされ、ニュースや世界で起きていることを自分の事としてとらえられるようになったといえます。

語り継ぐ大切さ

「目をつぶらないうちに、またおいで」。聞き取り調査の最後に、被ばくした元漁船員が大学生Nさんにかけた言葉です。

Nさんは、「実際に戦争

たちは私たちなりの知った責任を果たしていきたい」と語りました。

歴史を学び、次

を経験した人、核被害にあつた人はいつか居なくなつてしまいます。継承することとはやめてはいけません。何十年、何百年後の世代へ核被害があつた事実を継承することが大事です」と語りました。

大学生Fさんも聞き取りの際に「聞きかじりでもいいから、語り継いでくれる人がいてくれればいいんだ」との思いをうけて「私

大学生を指導した先生は、パネルディスカッションの感想で、「若い人たちが学ぶ環境を整えること、自由に安心して表現できる場を確保することです。それさえあれば、柔らかな感性、柔軟な思考で大事なことを



発表者の高知大生



世代へ

きちんとつかみ取ってください」と発言されました。集会の最後には、若者を中心とした起草委員会が作成した集会宣言文が読み上げられました。

『歴史を学ぶとは、年代や出来事の暗記だけではあ

りません。その時代に生活していた一人ひとりの人生に思いを馳せることだと思います』『核被災を余儀なくされた人びとの体験そのものや、そういった経緯を強いた歴史的な経緯について、私たち自身が学び、繋がる努力を重ねながら国内外に知らせることが大切だと考えます』。この決意を次世代へとつないでいくことが大切です。

2022年5月 理事会報告

- 1号議案 新型コロナウイルス感染症対策、2022年度通信教育申込(期間2022年5月中旬～12月31日)、医療生協学校8/29(月)開校、2022年4月決算/目標△287万円に対し実績△255万円と32万円の達成について確認した。
- 2号議案 第61回通常総代会6/29(水)の準備状況について確認した。
- 3号議案 支部運営委員ふやし月間(期間2022年6月～7月、目標1支部1名以上)について確認した。

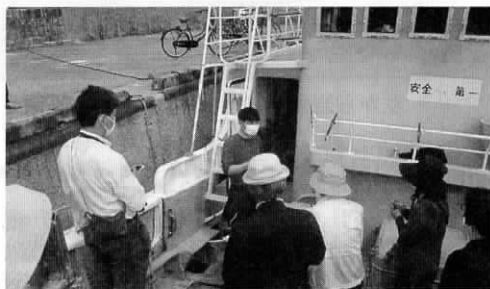
マグロ漁船に乗ってみました

ビキニデーin高知実行委員会 上田 亮太

6日に行われた室戸のフィールドワークでは、実際にマグロ漁船に乗り、話を聞かせてもらいました。

マグロ漁は狭い船内に10人近く乗りこみ、昼夜を過ごします。

はえ縄を投げ入れるのに4時間、回収には時に10時間もかかる過酷な仕事です。そんな苦勞の末、釣り上げたマグロを放射能汚染のために廃棄しなければならなかった当時の船員さんの無念が、リアルに想像できました。



漁業組合の方からマグロ漁の説明を聞く参加者

